

平成 23 年 9 月 20 日

## 9 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木は丸太生産が市況好転から増加。新材の入荷が始まったが雨天続きで搬出が遅れ入荷量少ない。全般に好調な荷動き、特にスギは柱材のほかに中目材の引合いも強くなった。製材工場の手当ても入り、入荷量が回復するまでは活発な引き合いが続く模様。価格は反発に転じたスギ柱材は、入荷量の減少も重なり、急速に値を上げている。また、ヒノキ柱材は引続き強保合で推移。中目材はスギは強含みでヒノキは強保合。群馬は、原木の入出荷に特別問題はないが、工場の操業は全般に仕事量少ない。製品は県外向けカラマツ集成材用ラミナ需要多い。7~8月の底から若干回復傾向にあるが、依然低水準の模様。

### 2. 米材

7月の米国新設住宅着工戸数は、前月比1.5%減の年率60.4万戸。米国丸太は中国の買いが戻りつつあり、価格は強含み。カナダ丸太はセカンドグロス保合、オールドグロス品薄状態が続く強保合。8月の産地港頭在庫は約4,640万スクリブナー(約21万m<sup>3</sup>)。また、ウェアハウザー社の9月積み米マツISソートは若干上がった模様。米材丸太の入・出荷、在庫とも横這い。大型港湾製材工場の荷動きは8月としては順調だった模様。内陸部製材工場の荷動きは低調で当用買いが続いている。製材品の8月入荷は7月と同じく減少気味。出荷は上向き、TLT(東京木材埠頭)は前月比45%増。在庫は7月をピークに8月は減少、TLTは前月比9%減。産地情勢は8月も中国の需要停滞が影響し、丸太伐採は低迷。従って米加製材品の生産・供給に影響しているが、米国の一部シッパーは米マツ丸太の確保ができ、製材品生産は順調。産地価格はシッパーから円高分の値上げ提示が強まっている。一方、日本国内は円高による先安感で相場は軟化、輸入者は挟み撃ちの状態。

### 3. 南洋材

サバの天候は良好。8月一杯断食と伐採規制のため出材は落ちている。合板用丸太の相場は国内工場からの引合い少なく弱い。ただ、慢性的に供給不足となっている製材用の良材、大径材及び堅木類は相変わらず強含みで推移している。製材品の相場は全ての品目で値上がり状態。サラワクは、天気はここに来て多少降雨はあるもののおおむね良好なため、出材は比較的順調。合板用丸太の相場は、国内工場の在庫が潤沢なことから、特に下級材の値下がりが著しい。また、輸出用も約20%値下げ。一方、良材、大径材及び堅木類は供給不足のためそれほど下がらない。PNG・ソロモンは、天候不順で安値丸太を探している消費国からの引き合いが相変わらず多く、相場はやや強含み。丸太入荷はやや増加、出荷は横這い、丸太在庫はやや増加。製材品入荷は横這い。原木の販売は、合板用は低迷、製材用は変わらず。製材品の販売は、先月同様平割り、棒材とも入荷不足気味で荷動き良いが、現地価格が急騰しており、その分転嫁できなければ採算は厳しい状況。

### 4. 北洋材

ロシア極東はアムール配船が6月から開始されているが、日本向けと中国内陸向けバージ出しの価格差が大きく（ $m^3$ 当たり20~30\$）、伐採業者は今後とも日本向け価格が中国向けを大きく上回ることはない判断し、融資残額を期間途中で全額返済してきた。このことによりロシア材の供給はさらに減少し、数量は少ないがロシア材を必要とするアイテムが今後安定生産できなくなる懸念が生じた。シベリア地方は引続き丸太供給がタイトで現地製材工場の原木在庫レベルは低い模様。富山港・富山新港の8月丸太入荷は、9,399  $m^3$ （カラムツ0、アカマツ6,069  $m^3$ 、エゾマツ3,330  $m^3$ ）と先月比28%減。製品は8,911  $m^3$ で前月比31%増。出荷は低調、在庫は3~4ヶ月。価格はアカマツ、エゾマツの丸太は弱含み。製材品は引続き弱含み。国内製材工場は、アカマツ、エゾマツの原木、原板とも不採算。稼働状況は採算合わず生産調整が続く。

### 5. 合板

合板用南洋材丸太は弱含みが続いているが、インドや中国からの引き合いが回復傾向で、今後引き締まる可能性も出始めており、南洋材メーカーは手当てを進めている状況。7月の国内合板生産量は19.7万 $m^3$ （対前年同月比86%）で、うち針葉樹合板は17.3万 $m^3$ （同比88%）で前月と同水準で節電の影響はなかった。出荷量は17.4万 $m^3$ （同96%）で生産量と同程度のため、在庫は8.2万 $m^3$ と前月と変わらず低水準。販売価格は、針葉樹合板が東西で価格動向に変化。東日本のメーカーは横這いを継続も、荷動き低迷が続く西日本のメーカーは前月に比べ

やや弱気配。輸入合板の下押しムードに引きずられ荷動きは鈍く、流通の再販価格はじり安傾向が続いている。国産針葉樹合板は被災メーカーの出荷が開始され、一部品目を除き月を追うごとに市場での不足感は解消されつつある。輸入合板はラワン構造用 12mm を筆頭に川上の販売姿勢が強く軟調な状態。市場では下落への懸念から買い控えが続き荷動きは停滞。7月の輸入量は35.9万m<sup>3</sup>で、5月のピーク時からは逐次減少しつつも依然として高水準。今後の入荷量はさらに減少するとの見方に変わりがなく、品目によっては不足の懸念も出始めている。7月の新設住宅着工戸数は大幅に増加し、秋需に向けての期待が高まっている。しかし、輸入合板を中心に先行きの相場動向は不透明なため、引き続き市場での手当ては様子見の状態が続く見通し。

## 6. 構造用集成材

現地の生産は順調。ラミナも安定して入荷しており、国内在庫はやや多い。国産集成材の受注・販売・荷動きともに、やや良くなり在庫も微減。価格はユーロ安の影響でやや弱い。輸入集成材の動向は、国内市場の先行き不透明感から、オファーは横這いで推移している。また、価格も若干弱含み。エコポイントの終了やフラット 35S の 9 月打ち切りなど、駆け込み需要があり国内のプレカット工場、集成材工場は 9、10 月とも忙しい状況。引続き大手ビルダー主体に忙しく、地場工務店は厳しい情勢。

## 7. 市売問屋

国産構造材は、価格的には弱いが、スギ、ヒノキとも小動きが出てきた。造作材は、国産材では鴨居やスギ建具用材に動きが見られる。外材では、動きに陰りの出ていたスプルース、ピーラー良材に引き合いが増えてきた。8月後半より来客が若干増えてきており、需要の動向に少し明るさが出てきた。秋需を迎えたことと、住宅金融支援機構の申請締切りの前倒しにより建築需要が多少ふえ、先行きに期待が持てそうだ。

## 8. 小売

国産材の構造材価格は、スギ KD 柱、小割、ヒノキ KD 柱、土台とも保合。外材は、米ツガ KD 平割、正角 KD、ロシアアカマツ弱保合。WW、RW 集成材は梁、柱とも弱保合。合板は、針葉樹は弱保合、ラワン合板変わらず。プレカット工場は、多少町場の仕事は出てきたがまだまだ。ビルダー関係は順調。工務店は引続き悪いが、リフォーム主体に動きが出てきた。仕事の受注がこれまでのロコミや紹介だけでなく、今後は I T 活用が必須。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)